

活動の概要

このプロジェクトは、各自が興味・関心を持った「福祉」を見つけ、それらを（ICT 等を含む）技術で取り組むことを念頭に活動している。

今年度は、昨年度に引き続き電子工作を使った教材作成のプラットフォーム「causal SW」を特別支援学校の先生へ提案してきた。また、発達性協調運動症の子どもに対してのプロダクトの提案、目元の表情筋発達に関する活動も行ってきた。

研究分担者：小林孝浩

プロジェクト研究補助員：篠田幸雄

学内での活動

1 プロジェクト実習（基礎）にて興味関心の共有

プロジェクトに興味のあるメンバーに、過去の活動や今年度の予定を紹介した後、各自の興味関心を持った内容などをプレゼンしてもらった。

日時：2024 年 5 月 10 日（金）

場所：プロジェクト室

2 オープンハウスでの展示

パネル展示を中心に以下の 4 点を紹介した。

「さわれる電子工作応用教具自作作用の素材 `causal SW` を提案」、「XR 教材『ヒヤリハットアプリ』」、

「姿勢が崩れやすいこどものためクッション」、「目元の表情筋発達を目的としたインタラクション」

また、クッションのプロトタイプや表情筋発達のデモ体験もできるようにした。

日時：2024 年 7 月 20 日（土）、21 日（日）

場所：IAMAS プロジェクト室



図 1 オープンハウスでの展示

3 IAMAS2025 でプロジェクト研究展示を実施

2024 年度のプロジェクト活動内容を展示で紹介した。主な内容は、パネルで「さわれる電子工作応用教具自作作用の素材 causal SW を提案」の他、「出会い頭事故 AR」、「目元の表情筋発達を目的とした体験の設計」の内容の 3 点とした。また、表情筋発達のアプリとして「め遊び -びょ～んびょん編-」を体験場所を設置した。



図 2 プロジェクト展示

日時: 2025 年 2 月 22 日 (土)、23 (日)、24 (月) いずれも 13:00-14:00

場所: センタービル 12F レセプションルーム

学内外での活動

1 ワイド福祉の技術プロジェクト (仮) の活動

オンライン上で気軽に相談、雑談する場として、2020 年のオープンハウス以来、毎週金曜日に一般参加者を交えて開催してきた。今年度は主に特別支援学校の先生と共同で実施している causal SW や発達性協調運動症の子どもに対しての活動についての意見交換など参加者を交えて実施した。

2 岐阜盲学校へ causal SW の提案

岐阜盲学校を訪問して、窓口となる先生へ causal SW の紹介し、盲学校での可能性や現在利用している教材について意見交換をした。希望があれば実際にワークショップなどを実施する計画

日時: 2024 年 6 月 17 日 (月)

場所: 岐阜盲学校

3 大垣特別支援学校の先生へ causal SW に関する

ワークショップを实践

先生方へ causal SW の説明と causal SW を使ったワークショップを実施した。

日時: 2024 年 8 月 23 日 (意見交換)

場所: 大垣特別支援学校



図 3 学校内の施設見学

4 廊下を走ると出会い頭で危ないことを知るための

AR アプリ開発

大垣特別支援学校の先生と昨年度から継続して、出会い頭事故 AR の開発を行っている。このアプリは、学校の廊下を走ったら危険であることを子供たちに理解しやすくすることを狙いとしているが、前回まではゲームをしている感覚で、リアル感などが足りないという意見をもらった。今回は Quest を使ってよりリアルな疑似体験となるように構築中

5 発達性協調運動症 (DCD) の子どもに対し、着座姿勢をサポートするプロダクト等の提案 (M2 学生)

対象の子どもに着座姿勢をサポートするため、肘掛け椅子を提案した。プロジェクトでは、椅子の導入前から本人との関係を築き、徐々に慣れてもらうことを重視した。また、椅子を使用する

時間をお昼の給食時に限定し、こちらから働きかけて着席してもらった。
今回は導入期間が十分に確保できなかったため、姿勢そのものに大きな変化は見られなかった。
しかし、本人や周囲の子どもたちの意識には変化が見受けられた。

6 表情表出の困難さに対する取り組み（M1 学生）

表情の表出が苦手な子どもたちに向けて、自然と表情筋を鍛えられるゲームを提案した。今年度は、目の開き具合を利用して操作できるアプリを制作した。オープンハウスでは、カメラで認識した目の開閉具合に応じて花火の打ち上げ方が変化するアプリを展示した。また、IAMAS2025 では、バネの伸縮を目の開き具合に連動させ、視覚と聴覚で体験できるアプリを展示した。
この取り組みは、外部のワークショップでも実施している。

7 プロジェクト研究の紀要執筆

このプロジェクトは今年度で最後となるため、「福祉の視点 -福祉の技術プロジェクト-」と題し最近の活動内容を中心に紀要にて執筆をした。
執筆内容として、さわれる電子工作応用教具自作作用の素材 `causal SW` を提案、防災をテーマとした活動、身体的不器用さのある子どものための、着座姿勢をサポートするプロダクト、表情表出の困難さに立ち向かう、という 4 つのトピックを紹介した。